

様々な障害を持った人(1)

「実際には、どのように手助けをすれば良いのか」 判らない方も多いかと思いますのでよくあるシーン別の接し方を、いくつかご紹介します。

●重度脳性まひ等、全身性障害の人

全身性障害の人の場合、身辺のお手伝いは難しくても、心のふれあいは誰にでもできます。
言語障害を伴う人もありますが、話を聞く場合は、言葉ひとつひとつをかみしめるように聞き分け
どうしても言葉がわからない場合は、何度も聞き返す事が大切です。

●知的障害を持った人

言葉遣いはわかりやすく、ていねいに

知的障害を持つ人とコミュニケーションをはかるには、難しい言葉や言い回しはなるべく使わず、ゆっくり、わかりやすく、ていねいに話す事が大切です。
このとき、大人の人に対しては、子供っぽい言い方はせず、大人としての接し方を心がけましょう。

みんなと同じ態度で

はじめて知的障害の人に会うと、警戒心をもってしまう人がいます。
怖がったり、わざと避けたり、わけもなく笑ったりすることは、本人や家族の心を傷つけるだけでなく、心の扉もかたく閉ざしてしまうこととなります。

危険なところでは

知的障害を持った人は、危険に対処しうまく対応できない事があるので、周囲の人たちは、気づいたら遠慮せず、うまく安全な方向に導いてあげましょう。

様々な障害を持った人(2)

●精神障害を持った人

精神に障害を持つ人に対して、不気味な人とか、何をしでかすかわからない人という恐ろしいイメージが強いようですが、精神障害は脳をはじめとした神経系の病気であり、特に思春期に発病する事が多く誰にでも起こりうる病気です。

障害を残す事もある慢性の疾患で、周りの人々が正しい知識を持って、うまくサポートしていく事がとても大切です。

例)

- ・友達や話し相手など、仲間との関わりを大切にする
- ・小さくてもできる役割があることを尊重する
- ・自分の部屋、作業所、なじみの場所など、その人の居場所を確保する
- ・こころの病気をもちながら、社会の中で生活している事を理解し、病気への対応や対人関係のコツ等を学ぶ場を大切にする

●内部障害を持った人

内部障害には、心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸などの機能障害があります。

内部障害を持った人かどうかは、外見からはわかりませんが、日常生活において不便なことや不安を感じる事があります。

ペースメーカーについて

心臓ペースメーカーは携帯電話や万引き防止システム等の電磁波による影響を受ける可能性があります。ペースメーカー装着部位から一定の距離を保てば安全と言われていますが、人ごみでの携帯電話の使用は避けましょう。また満員電車の中など、人と人が隣接する場所では、電源を切るようにしましょう。

喫煙

心臓や呼吸器に障害のある人にとって、たばこの煙は不快だけでなく、不整脈や呼吸困難の原因になることがあります。たばこを吸う時は周りの人に一声掛けてからにしましょう。

職場や周囲の理解

内部障害を持ちながら仕事をしている人は、人工透析のように定期的な通院を要するため、度々休まなければならないこともあります。

また内部障害者に限らず、体温調整が難しい障害者にとって、冷暖房は過剰に感じる場合があります。いっしょに居るときはちょっとした気遣いが嬉しいものです。